

小学校第6学年

国語 B

注意

- 1 先生の合図があるまで、中を開かないでください。
- 2 調査問題は、1ページから14ページまであります。
- 3 解答用紙は、両面に解答らんがあります。解答は、すべて解答用紙に書きましょう。
- 4 解答は、HBまたはBの黒えん筆（シャープペンシルも可）を使い、こく、はっきりと書きましょう。また、消すときは消しゴムできれいに消しましょう。
- 5 解答時間は、40分間です。解答が早く終わったら、よく見直しましょう。
- 6 つくえの上の「個人番号票【解答用紙記入用】」をよく見て、解答用紙に、学校名、組、出席番号、男女、個人番号をまちがいのないように書きましょう。

問題は、次のページから始まります。

六年生の山中さんは、「小学生の体力は二十年前よりも低下した」という記事を読んで、興味をもちました。そこで、自分たちの小学校における五十メートル走の平均タイムの変化について調べ、次の報告文を書きました。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

五十メートル走の平均タイムの変化

第一小学校 六年 山中 洋平

一 調べた理由

「小学生の体力は二十年前よりも低下した」という記事を見つけた。そこには、全国の小学校六年生の五十メートル走の平均タイムが下の【表】のようにまとめられていた。平成十九年のタイムが、二十年前の昭和六十二年よりもおそくなっていた。

【表】50メートル走の平均タイムの変化
(全国の小学校6年生)

男子		女子	
昭和62年	平成19年	昭和62年	平成19年
8秒60	8秒91	8秒91	9秒19

(右下に続く)

ぼくたちの学校でも同じだろうかというぎもんがわいてきた。そこで、第一小学校の平均タイムの変化について調べ、記事と比べてみることにした。

二 調べた内容と結果

第一小学校における六年生の五十メートル走の平均タイムの変化について、平成二十一年(現在)と、昭和六十二年(記事で取り上げられていた約二十年前)を取り上げて調べた。

(左上に続く)

◆平成二十一年の第一小学校六年生の平均
タイム

一つめとして、ぼくたち六年生の平均タイムを調べた。

まず、体育の時間に学年全員の五十メートル走のタイムを計った。走った人数は、男女ともに三十五人ずつだった。

次に、平均タイムを先生に出してもらった。平均タイムは、男子は九秒〇、女子は九秒三だった。

◆昭和六十二年の第一小学校六年生の平均
タイム

二つめとして、昭和六十二年のぼくたちの小学校の六年生の平均タイムを調べた。

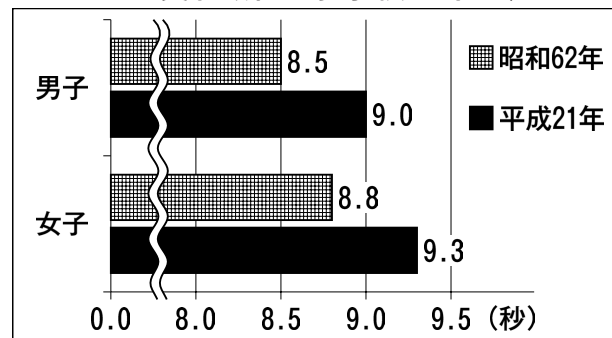
学校図書館でさがしたが、データが見つからなかった。そこで先生に相談すると、先生がデータを見つけてくださった。平均タイムは、男子は八秒五、女子は八秒八だった。

(右下に続く)

三 まとめ

平成二十一年と昭和六十二年の第一小学校の平均タイムを、下の「グラフ」のよう

【グラフ】50メートル走の平均タイムの変化(第一小学校6年生)



A

調査をきっかけに、もっと速く走れるようになるにはどうすればいいのだろうか?と考えるようになった。

これからも、体力や運動の仕方などに関心をもって、いろいろな本を読んで調べたり、積極的に運動に取り組んだりしたい。

一 次は、山中さんが調べる内容を書いたメモの一部です。報告文の「二 調べた内容と結果」を読んで、アの中に入るふさわしい内容を書きましよう。

【メモの一部】

◆平成二十一年の平均タイム

①

ア

◇ 日時 平成二十一年四月十五日 三時間目

◇ 場所 運動場

◇ 人数 男子三十五人 女子三十五人

◇ 準備 記録用紙、ストップウォッチ、コーン
...

② 平均タイムを先生に出してもらおう

◆昭和六十二年の平均タイム

...

川口さんの学級では、家族の一員としてできることを考えるために、家庭での過ごし方について調べました。次は、川口さんのグループが集めた資料をもとにした話し合いの様子の一部です。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

【資料】家の中のそうじや整とんをする小学校6年生の割合

	いつもしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしていない	無回答など
平成16年	15%	52%	24%	9%	0%
平成17年	14%	48%	29%	8%	1%

(国立オリンピック記念青少年総合センター

「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」による。)

司会 ここからは、川口さんたちが集めた【資料】をもとに

して、「家の中のそうじや整とん」について話し合います。【資料】を見て分かったことや考えたことを発表してください。

川口 平成十六年を見ると、「いつもしている」人が少ないと思います。家の中のそうじや整とんはむずかしいことではないと思います。家族の一員としての自覚をもって、積極的に取り組むべきではないでしょうか。

松山 確かに、平成十六年の「いつもしている」は十五％しかいません。でも、「ときどきしている」を合わせると、六十七％もいます。むしろ、よく取り組んでいるほうだと思います。

司会

今、二人は、平成十六年の割合から考えた意見を出してくれましたが、平成十七年の割合からも考えてみてください。

村田

わたしは、平成十七年の「あまりしていない」と「まったくしていない」に注目しました。この二つを合わせると、三十七%にもなります。しかも、平成十六年よりも増えているので、もっと取り組んだほうがいいと思います。

あなたの発表

ア

〽 (話し合いが続く) 〽

一 話し合いで出された意見を次の の中にある二つに分けます。「川口・松山・村田」の三人は、それぞれA・Bのどちらの意見になりますか。 の中に、それぞれAかBのどちらかふさわしいほうを選んで書きましよう。

A 最近の小学校六年生は、家の中のそうじや整とんによく取り組んでいるという意見

B 最近の小学校六年生は、家の中のそうじや整とんにあまり取り組んでいないという意見

※解答は、解答用紙に書きましよう。

川口

松山

村田

二 あなたは、ア のところで、前のページの にある **A** の意見の立場から発表することになりました。あなたならどのような内容を発表しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

【条件】

- 平成十七年の割合（％）を取り上げること
- 六十字以上八十字以内にまとめて、発表するように書くこと

(メモ) ※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

上野さんの学級では、マナーに関する本を読んで、自分の考えをまとめることにしました。上野さんは一冊の本を読んだ後、本の「はじめに」と「おわりに」とを合わせて読んで、内容を確かめることにしました。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

※段落のはじめにある数字は、その段落の番号を示しています。

はじめに

- 1 みなさんは、家でも学校でも「食べるときには、いただきますと言いなさい」「電車ではお年寄りに席を譲りなさい」などと、教わりますね。もしかしたら、学校のクラスで「こういうときは、どうしたらいいのかな」とマナーやルールを考える授業もあるかもしれないかもしれません。みなさんは、そういうとき、正しいマナーがわかるでしょうか。
- 2 正しいマナーなんて、簡単ですね。誰でもわかることばかり。みなさんも、きっと、心のなかで「そんなこと、あたりまえじゃん」とおかしく思いながら答えているのではないのでしょうか。
- 3 でも、よく考えてみてください。あたりまえのマナーを、あなたは、家や学校でほんとうにやっていますか。頭ではわかっているけど友達たちに「ごめんね」と言えなかったり、宿題をやるうやろうと思いつながらテレビを見ていたりしませんか。
- 4 マナーは、知っているだけでは足りないのです。ちゃんと行動して、言葉にだして、できるようになって、はじめて「マナーOK」なのです。「知識一〇〇点、行動〇点」よりも、「知識五〇点、行動五〇点」の人のほうが、ずっと立派です。

おわりに

- 1 最初に、マナーは実践じっせんするのがたいせつだ、と書きました。つまり、知っているだけでは足りなくて行動するのがだいじなんだよ、ということでした。ところが、さらにマナーやルールには、もうワンランク上のむずかしい点があるわけです。
※1
- 2 なぜ、むずかしいのでしょうか。それは、マナーやルールは、自分だけのことではなくて、人と人との関係を支えるものだからです。大人の用語で言えば、「社会的な人間関係※2の潤滑油じゆんかつゆ」だから、と言えます。
- 3 マナーは自分中心ではなくて、相手中心に考える気持ちからはじまることなのです。だから自分の気持ちや行動だけを考えていては、相手とずれることも出てくるのです。相手のことを思い、相手の様子に気づくことから、人と人が仲よくすごすために役に立つ、すてきな行動がはじまるのです。

(辰巳渚『これだけは知っておこう！ マナー・エチケットの基本60』による。)

※1 「ワンランク」……一つの段階だんかいや順位。

※2 「潤滑油」……物事をうまく運ぶためのなかだちとなるもののたとえ。

― 上野さんは、「はじめに」の第1段落の表現がくふうされていることに気付きました。そのくふうを説明したものとして、もっともふさわしいものを次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 筆者が失敗した体験をもとにして、マナーのむずかしさを考えさせている。
- 2 筆者の体験と読者の体験のちがいを比べて、マナーの大切さを示している。
- 3 読者の体験を思い出させて、マナーを身近な問題としてとらえさせている。
- 4 読者が体験したマナーのまちがいを示して、具体的な行動の方法を教えている。

二 上野さんは、「はじめに」と「おわりに」の中に書いてある筆者の考えを次のようにノートにまとめました。あとの問いに答えましょう。

【上野さんのノートの一部】

① 「はじめに」の中に書いてある筆者の考え

「知識一〇〇点、行動〇点」よりも、「知識^ア五〇点、行動五〇点」の人のほうが、ずっと立派です。

マナーについての知識は十分であるのに、全く行動しない人よりも、

A

人のほうが立派である。

② 「おわりに」の中に書いてある筆者の考え

マナーやルールには、もうワンランク上のむずかしい点があるわけです。

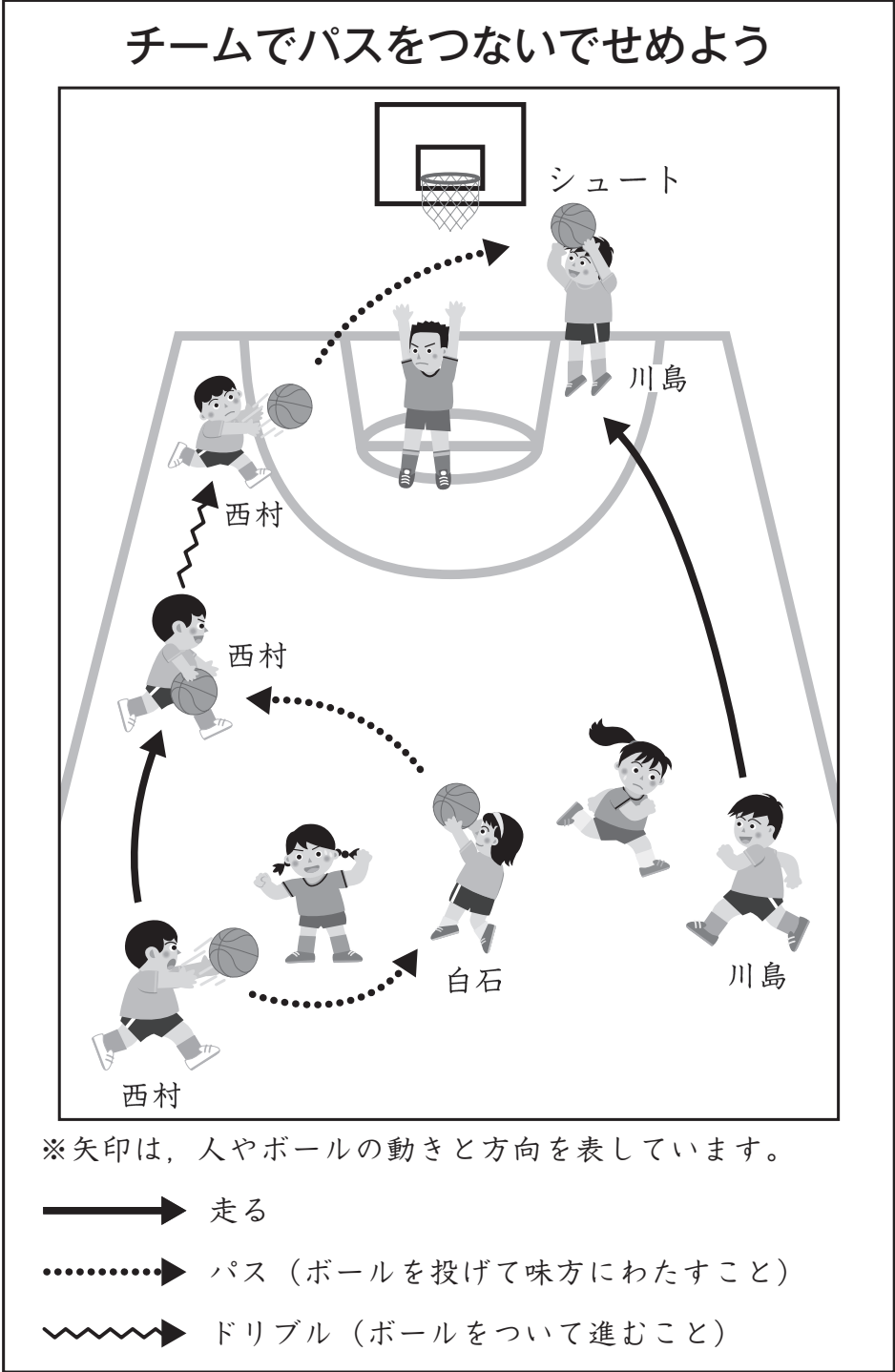


B

さらに、マナーやルールのむずかしい点は、

4

【西村さんのチームの作戦図】

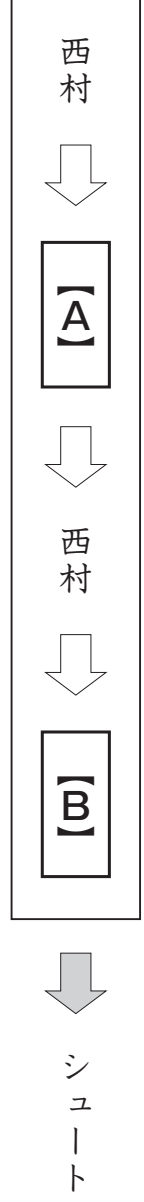


◆西村さんのチームは、西村・白石・川島の三人です。

西村さんの学級では、バスケットボールの学習で、三人対三人でのせめ方や守り方の練習をしています。次は、西村さんのチームのせめ方についてまとめた作戦図です。人やボールの動きを考えて、あとの問いに答えましょう。

一 西村さんのチームでは、ボールをわたす順番を次のように整理しました。次の
【A】 ・ 【B】
にあてはまる人の名前をそれぞれ書きましょう。

【ボールをわたす順番】



二 西村さんのチームでは、チームのせめ方を次のようにまとめました。 【ア】 ・

【イ】 の中に入るふさわしい内容を「だれが」、「どうする」ということが分かるように
書きましょう。

まず、コートの上側にいる西村さんが、中央にいる【A】さんにパスをします。その後、
西村さんは、ゴールに向かって走ります。
次に、
ア
そして、西村さんは、ドリブルをしてゴールに向かいます。コートの上側にいる【B】
さんも、西村さんの動きに合わせてゴールに向かって走ります。
それから、
イ
最後に、【B】さんは、ゴールに向かってシュートをします。

これで、国語Bの問題は終わりです。

平成21年度 全国学力・学習状況調査

平成21年4月 文部科学省